

## はしがき

2023年6月17日～18日開催の第166回大会予稿集をお届けします。大会のオンライン開催がずっと続いていましたが、大会運営委員会で慎重に検討した結果、今大会は専修大学において対面で開催することになりました。まだまだコロナ感染が終息したわけではありませんから、感染予防に最大限注意しながらの開催となります。日頃にも増して気を遣う大会運営に全力を尽くしていただいている大会運営委員会および大会実行委員会のみなさん（特に松浦年男大会運営委員長と長谷川宏大会実行委員長）に心よりお礼を申し上げます。

今回の第166回大会から、発表応募時に「口頭発表」と「ポスター発表」について第1希望と第2希望を選べるようになりました。その結果、口頭発表第1希望が48件、ポスター発表第1希望が6件、ワークショップが5件の応募があり、うち49件が採用されました（内訳：口頭発表15件、ポスター発表29件、ワークショップ5件）。今までの大会同様、様々な言語（あるいは言語一般）を対象とする、極めて多様なアプローチによる研究発表が予定されています。

大会2日目（6月18日）に行なわれるのは、早稲田大学の尾島司郎氏の企画・司会による公開シンポジウム「言語学から見た子どもの英語習得」です。日本社会において極めて高い関心を持たれている子どもの英語教育ですが、関心が高いわりには学問的成果に基づく正確な理解を背景にした議論はそれほど多くないようです。このシンポジウムでは、小学校における英語教育、海外でのバイリンガル発達、インターナショナルスクールと「おうち英語」等の問題を取り上げ、学問的研究によって蓄積されてきたデータを一般の人にもわかりやすい形で紹介・共有することによって、日本人の子どもの英語習得の真の姿がどのようなものなのかを正確な事実認識に基づいて実り豊かに議論できる場を提供することが意図されています。

コロナ禍のもとで本学会も何度もオンライン大会を経験し、研究発表やディスカッションに限っていえばそれほど不自由なく行なえるようになってきたと言えますが、やはり実際に人と人が対面して議論することから得る恩恵は、オンラインではなかなか得がたいものがあります。大会運営委員会でもその面を重視して、感染リスクに最大限注意を払いながら対面開催を試みるという結論に達したようです。まだまだ油断が出来ない状況ですが、可能であれば、どうか充分にご注意されながらご参加ください。なお、参加登録をされた方は、当日参加だけでなく、後日配信予定の研究発表、ポスター資料の視聴とフォームを用いた質問も出来るようになっています。

最後になりましたが、今大会も事前の参加登録と参加費の支払いを奨励しています。（当日のご登録も可能です。）どうかご登録をよろしくお願いいたします。

2023年6月

日本言語学会 会長 福井 直樹